



旭丘小だより

練馬区立旭丘小学校

学校便り 12月号

平成26年11月28日発行

発行責任者：野田 豊

一番難しいこと

副校長 佐野 匡

私が教師になったとき 自分が真理から目をそむけて
子ども達に本当のことが語れるか
私が教師になったとき 自分が未来から目をそむけて
子ども達に明日のことが語れるか
私が教師になったとき 自分が理想をもたないで
子ども達にどうして夢が語れるか
私が教師になったとき 自分が誇りをもたないで
子ども達にどうして胸をはれと言えるか
私が教師になったとき 自分がスクラムの外にいて
子ども達に仲良くしろと言えるか
私が教師になったとき 自分が戦いの外にいて
子ども達に勇気を出せと言えるのか

12月になりました。最後の月にあたり、今年一年、私自身が「教師」であれたのかあらためて振り返っています。そして、十分にできなかった自分の姿を見つめ、決意を新たにしているところです。この詩は、私が初任者として研修を受けたときのレジユメ(資料)に記されていた詩です。宮沢賢治の作品という説もあれば、違うという説もありますが、この作品に当時の私がおおいに影響を受けたことは事実です。

教師も親も、私たちは次から次へと子どもに大人の期待を押しつけてしまう傾向があります。大人の期待を端的に表す言葉として「這えば立て立てば歩めの親心」があります。子どもの成長を心から待ち望む親の心をいう言葉です。しかし、ともすれば、私たち親は、子どもの成長を喜ぶ間もなく、次のことを要求したくなります。子どもは、成長過程であることを忘れずに、大人が共に成長する姿を見せなければと改めて思いました。この一年、どの子どもも確実に成長しました。それを認め、喜び、そして、これからの成長に期待しましょう。

一年の終わりにあたり、子どもとともに、今年を振り返る機会を是非もって下さい。その際に次の二点を大切にして下さい。

世の中で一番難しいことは、自分を見つめること。

世の中で一番簡単なことは、他人を批判し、相手のせいにする事。

自分を厳しく見つめることは、自分を成長させます。人のせいにしてしまうことは、一番簡単なことですが、自分のためには、決してなりません。

今年一年学校の教育活動へのご理解、ご協力ありがとうございました。